

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。
今年ももう師走、もうすぐ1年が終わりますね。いかがお過ごしでしょうか。
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動していきます。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

1. 第2回全国オーガニック給食フォーラム 参加報告

■ 1 ■ 第2回全国オーガニック給食フォーラム 参加報告

11月8日に茨城県常陸大宮市で開催された「第2回全国オーガニック給食フォーラム」にオンライン参加しましたのでご報告します。オーガニックビレッジは129市町村、オーガニック給食に取り組む学校数も全国で193校（2022年度）と年々増加しています。

基調講演①鈴木宣弘さん「給食が拓く子どもたちの未来～行政、協同組合の役割」

今年のコメ不足の原因は猛暑とインバウンドだといわれていますが、それはさいごの一押しであり、根本にはそこまで追い詰めてきた日本政府の政策があります。コメの買取価格は農家が1年働いて手元に残るおかねが1万円というような状況で、とても再生産できるものではありません。肥料もタネも輸入に頼り、海外からお金で買うことを前提にした食料安全保障から発想を転換できない政府は、国内の生産を支え、備蓄し、子どもたちの未来を守るために使うお金はないとでも言いたげです。消費者が安さを求めるから価格転嫁できないことを考えれば、農業問題は消費者問題ともいえます。

そこで提案したいのは、入口を農協、出口を生協が支える協同組合間協同でオーガニック給食を実現していくことです。地域で給食を核として出口を作り、安定価格で取引ができるようにできれば、地域も子どもたちも元気になります。食糧危機、農業危機はさらに深刻化していきそうですが、各地の農家のふんばりこそが希望の光です。「農は国の本なり」その底力をいまこそ発揮しましょう。

基調講演②堤未果さん「いのちの給食が世界を変える～私たち大人が手渡せるもの」

アメリカでは、超加工品とよばれる新大豆バーガーが 2021 年に学校給食にデビューしました。牛を殺さないのがエシカルだとされ、子どもたちが「毎日食べたい」というくらい味も良く人気です。世界中に輸出もされていますが、ブラジルの木を大量に切ってプランテーション栽培される遺伝子組み換え品種の大豆が使われており、結果的に環境破壊につながっていること、また食品添加物や塩分が大量に使われていることが問題視されています。自分たちでまだ十分な判断ができない子どもたちをターゲットにすることは悪質です。情報公開と予防原則を大人が意識していなければなりません。

日本のようにすべてのいのちを対等にみる思想、循環を重視する文化は世界中でもまれです。日本の有機農業にはその思想が流れています。超加工品は安く便利ですが、子どもたちを自然から遠ざけ、感じる力を奪ってしまうことにつながります。24 時間 365 日いつでも同じものが手に入り、食べられるという「ファスト思考」が高まると、巨大企業の工業的で効率的な食システムに飲み込まれてしまいます。いつでも同じものが手に入るわけではないことを知ることは、人間性を取り戻すこと。いまを大切に生きられるようになることは、子どもたちにとって恵みです。地域ごとのオーガニック給食を軸に、正しさではなくやさしさでつながって世界を変えていきましょう。

J A からの報告、常陸大宮市の事例発表、パネルディスカッション

J A 東とくしま、J A 常陸をはじめ、12 の J A から報告がありました。J A 東とくしまは、中干（稲の育成途中で田んぼの水を抜き土を乾かすこと）を行わないことで気候変動対策と生物多様性保護を両立する栽培技術について報告。J A 常陸は、北関東でもトップクラスの規模の J A でありながら有機農業に取り組み、学校給食へ有機栽培のじゃがいも、さつまいも、かぼちゃ、にんじん等の野菜や米を供給している事例を紹介しました。J A 常陸秋山組合長の「J A が時代の抵抗勢力にならないようにやっていきたい」ということばが印象的でした。

5 名の女性によるパネルディスカッションでは、日本の有機農業の問題は食べる側が育っていないことという問題提起がなされました。くらしの中心は食、食の中心は農。高齢化が進むなか、生産者と消費者の距離を縮め、いまこそ地産地消の地域循環をつくらなければ地域を守っていけません。「カリスマは必要ない。みんなが主役。給食から社会を変えてみませんか」という呼びかけに、1200 人以上の参加者の心がひとつになったように感じました。次回は 2 年後に栃木県小山市で開催されます。それまでにオーガニック給食がどれだけ全国に広がっているか、楽しみです。

●来月もお楽しみに♪●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー! (奈良の学校給食を考える会)

E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com

facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>

事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内 (田原本町西竹田 33-1)
